● アピコメの商品発注（システム）

○初回商品発注を終えて。

使用したオリジナル生地は、高価な生地や1点ものの生地の為、ロス分をみることができず、縫製の際に失敗できないという緊張がある。

○関東地方へのアプローチ

2009年11月11日（木）～13日（金）まで開催されるJAPAN　TEXにて発表の場をつくれないか。

TDAのブース内4Mほどのスペースで、アピコメのしくみ説明・活動報告・作品を発表したい。

○仕様について

つくる楽しみを考えると仕様を変えたくなるが、今のところ「同仕様で100本」の発注が原則でカスタマイズは難しい。同一仕様で回転させることを考えなければならない。

○仕様が変わると、縫製会社の責任が重くなるため。

ビジネスとして、開発費ばかりが増える・在庫資産（余っている資材）が増えていくのはNG。

● 商品の販売についての検討

○ビジネスとしてのマーケティングを考える必要がある。

「4P」＝「プロダクト」「プライス」「プレイス」「プロモーション」の強みを考える。

「プロダクト」

アピコメの強みは「たくさんのデザインがある」こと。「デザイナーが明確」なこと。

「プライス」

原価およそ3000円～3500円（個人によって上下する）とすると、最低でも上代およそ10000円になる（ミュージアムショップの価格）。100本～300本くらいの発注では、数量を増やして発注しようと、縫製代は下がらない。今後、どのようにモノの値打ちを上げるか、付加価値を付けられるかを考える必要がある。

「プレイス」「プロモーション」

TDAとしてメディア等の媒体を使った仕掛けやPR方法を考える必要がある。

そこに、個人としての知恵を加えた両方からアプローチし、ビジネスにしていかなければいけない。

● 今後の課題と方向性

プロジェクトのスタート時は、TDAでモノをつくるしくみを作ることを優先し、販売することは、あくまでも各個人でという考え方からスタートした。いずれ「マーケティングをどうするか」ということと「同一仕様で回転すること」の進行する優先順位を決めなければならなくなる。今後更には、ゴールを決めてやるのではなく、経験し続けることや発表することを継続させることが必要なのではないか。

JAPANTEX会場風景

● JAPANTEX TDAブースにてアピコメバッグ出展

2009年11月11日（水）～13日（金）東京ビッグサイト

（参考:JAPANTEX 2009の来場者数　延べ19,773名）

○あびこめバック展示にあたり各自ブランドコンセプトや製品に対するをアピール文にまとめました。（抜粋）

1

奈良平　宣子（写真1）

Dot Bag 水玉はシンプルですが、多様に展開できる楽しい模様です。アクセサリー感覚で持つバッグをデザインしました。素材感を大切に少量で個性尊重のデザインを心がけ、ファッショングッズ、インテリアグッズの企画、デザイン、制作をしています。

野々口　悟（写真2）

ハートが一杯！「♡」は地球を救う！　人の心・気持ちを優しくする「♡」愛する心が万物を大切にし、心ウキウキ楽しくさせる！　人類愛の、環境愛の、平和の「♡」です。

これらをオプティカルに表現しました。

2

矢澤　寿々子／ココ・プランニング（写真3）

手ごろな大きさでありながら、個性やセンスが際立つバッグ。いつものバッグのサブとして持つ際に、サブであってもちゃんと主張がある。そんな役割の「エコロジカル」がテーマのナチュラルを意識したかばんです。

山口　道夫／アトリエ・ヤマグチ（写真4）

数年前からプライベートブランド／my,s の展開をしています。

my,sとは、私の。michioのm山口のy協力者等のsです。

テキスタイルだけではなく幅広い技法や塩材の製品で構成しています。

3

○JAPANTEX TDAブースにてアンケートによるご意見・ご感想

・おもしろい企画だ。
・ワンランク上の高級な素材感を出すことで、もっと良いものができそう。
・テキスタイルの深みを探している感じがした。
・テキスタイルアーティストとして活動していく上で参考になった。
・売り方で広がると思う。
・エコバックにつながる。
・このぐらいのバッグは、ありそうで素敵な物がないので面白い試みだと思う。
・頑張って下さい。
・バックのデザインにもう一工夫を！
・取手が少し長く、肩に掛けられる程度になれば良い（3名から同意見あり）
・中袋に同じ柄の袋（ただの四角でよい）があると物が整理しやすい。
・ファスナー付きで中が見えないと良い（2名から同意見あり）
・サイズ違いが欲しい（トートバック）
・素材の面白いバックで、良いと思います。

4

今後多くの参加者が集まれば色々な形を小ロットで生産する事も可能になっていきます。色々な可能性が広がっていきますので皆さんのアピコメプロジョクト参加、よろしくお願い致します。

（佐々木　尚）